

岡崎 文雄 著

大分の石橋探訪



Vol.3 本耶馬溪町(1)

中津市 本耶馬溪町

初版：2007年4月13日発行

目次&収録石橋目録

(表中をクリックすると各橋のページが開きます)

新市郡	合併前の市町村名	番号	橋名	きょうめい	所在郡市町村名	種類	架替時期
中津市	本耶馬溪町 (1)	本耶馬溪町 015	城山橋	しろやまばし	中津市本耶馬溪町下屋形恵良	アーチ橋	
		本耶馬溪町 016	神迎橋	かみむかえばし	中津市本耶馬溪町今行粉	桁 橋	
		本耶馬溪町 017	萬橋	よろずばし	中津市本耶馬溪町今行粉	アーチ橋	
		本耶馬溪町 018	堤橋	つつみばし	中津市本耶馬溪町東屋形堤	アーチ橋	
		本耶馬溪町 019	大正橋	たいしょうばし	中津市本耶馬溪町東屋形前鶴	アーチ橋	
		本耶馬溪町 020	小川内橋	おごうちばし	中津市本耶馬溪町東屋形石場	アーチ橋	
		本耶馬溪町 021	七所宮神橋	ななしょぐう・しんばし	中津市本耶馬溪町東屋形前鶴	アーチ橋	
		本耶馬溪町 022	蔭平神社参道橋	かげへらじんじゃ・さん どうきょう	中津市本耶馬溪町螻川内	アーチ橋	
		本耶馬溪町 023	耶馬溪橋	やばけいばし	中津市本耶馬溪町曾木	アーチ橋	
		本耶馬溪町 024	大迫橋	おおさこばし	中津市本耶馬溪町曾木	アーチ橋	
		本耶馬溪町 025	羅漢寺橋	らかんじばし	中津市本耶馬溪町曾木	アーチ橋	
		本耶馬溪町 026	【禅海橋】	ぜんかいばし	中津市本耶馬溪町跡田小出	アーチ橋	H 2 年撤去

- ① 各橋に便宜上 001 ~ 618 の通し番号を付加した。
- ② 【加勢橋】などカッコ付きは撤去された橋。
- ③ 市町村名は合併後の新市町村名称とし、合併で旧町村名が消えた町村は(旧佐賀関町)、(旧野津原町)(旧香々地町)(旧真玉町)を付記し、三光村○○→三光○○、大田村○○→大田○○、宇目町○○→宇目○○、直川村○○→直川○○など、旧町村名が分かるところは(旧町村名)は付記しなかった。
- ④ 区分けは新市単位とし、各市の中は合併前の町村単位に区分けした。
- ⑤ 桁橋の橋名は **植野橋** のようにゴシックの強調文字とした。
- ⑥ 年号には (1815) のように洋年号を付記した。
- ⑦ 旧町村指定有形文化財は合併後、市の指定になったかを確認し、最新の指定を記した。合併前の旧扶間・庄内・湯布院が文化財指定していたものは、由布市に合併後、指定が解除された。よって、旧町指定を表記した。

※「大分の石橋探訪」「オオイトデジタルブック」について／奥付け

<15>

城山橋

(しろやまはし)

山国川の支流屋形川には7基の石アーチ橋が現存しているが、この中で最も下流にあるのが城山橋である。橋脚の上に扁平なアーチを載せているのがこの川の石橋に共通した特徴である。橋脚をコンクリートで補強している。



城山橋・・・中津市本耶馬溪町 下屋形 恵良／架設年：大正末期（1922～1926）と推定
橋長：16.8 m／橋幅：2.45 m／拱矢：0.95 m／環厚：40cm／3連アーチ

<16>

神迎橋

(かみむかえはし)

県道 44 号から屋形川を斜断して対岸に渡る沈み橋である。県内には沈み橋も多いが、石造の沈み橋はこの橋を含めて数基である。御影石の桁石 5 本、5 径間の石橋である。上流に新橋が架設されている。



神迎橋 ・ ・ ・ ・ ・ 中津市本耶馬溪町 今行 粉 / 架設年：大正 14(1925) 年 6 月
橋長：38.6 m / 橋幅：2.1 m / 5 径間桁橋

<17>

萬橋
(よろずばし)

県道 44 号脇に架かっており旧県道の橋である。

上流側は昭和 24(1949) 年に拡幅してある。耶馬溪橋を架けた地元の岩淵万吉の義弟鳥越七郎が架設している。



萬橋・・・・・・・・中津市本耶馬溪町 今行 粉／架設年：大正 10(1921) 年 10 月
橋長：20.0 m／橋幅：4.0 m／拱矢：1.5 m／径間：6.0 m／環厚：45c m／2 連アーチ

<18>

堤橋

(つつみはし)

屋形川の左岸を通じる県道 44 号の脇に架かっている。上流側を拡幅している。架設時期も石工も不明であるが、外観等から見て岩渕万吉の一党の技術であることは間違いない。



堤橋・・・中津市本耶馬溪町 東屋形 堤／架設年：大正末期（1922～1926）と推定
橋長：21.0 m／橋幅：2.8 m／拱矢：1.0 m／径間：5.0 m／環厚：40cm／3 連アーチ

<19>

大正橋

(たいしょうばし)

屋形小学校の前に架けられた児童の通学路である。今では珍しい木造校舎と校庭の桜と石橋の調和が美しい。地元の石工岩淵万吉の初期の作である。

平成 5(1993) 年、増水のため上流側の高欄が流失したが補修された。屋形小学校も廃校になって石橋を渡る児童の姿は見られなくなったが、平成 18(2006) 年秋以降は地区の交流拠点施設として活用されている。



大正橋 ・ ・ ・ ・ ・ 中津市本耶馬溪町 東屋形 前鶴／架設年：大正 3 年(1914)
橋長：27.0 m／橋幅：3.8 m／拱矢：1.5 m／径間：6.0 m／環厚：45c m／2 連アーチ

20

小川内橋
(おこうちばし)

屋形川の奥、小川内地区に通じる市道にある。上流側を拡幅している。兩岸は4段の石積みでその上にアーチを載せている。アーチは扁平。石工は明らかでないが岩渕万吉か鳥越七郎であろう。



小川内橋・・・中津市本耶馬溪町 東屋形 石場／架設年：大正 14(1925) 年 5 月
橋幅：2.7 m／拱矢：1.5 m／径間：6.6 m／環厚：45c m／単一アーチ

<21>

七所宮神橋

(ななしよう・しんばし)

屋形川の支流に架かる七所宮の参道橋で個人で寄進している。神社の裏手にあたる木立の蔭にひっそりと架かっている。

平成 5(1993) 年の豪雨で、すぐ上流の崖の崩落や増水があり石橋の橋面が洗われた。以前の趣が損なわれたのが残念である。



七所宮神橋・・・中津市本耶馬溪町 東屋形 前鶴／架設年：昭和 13(1938) 年 12 月
橋長：6.0 m／橋幅：2.7 m／拱矢：1.0 m／径間：5.4 m／単一アーチ

<22>

蔭平神社参道橋

(かげへらじんじや・さんどうきょう)

県道 44 号から、対岸の蔭平神社に通じた参道の橋であったという。この社は下流の七所宮に合祀されたため、現在は農作業の人がたまに石橋を渡っているようである。



蔭平神社参道橋・・・中津市本耶馬溪町 鑿川内／架設年：明治 45 年（1912）以前と推定
橋長：6.6 m／橋幅：1.8 m／拱矢：1.55 m／径間：3.4 m／環厚：30cm／単一アーチ

<23>

耶馬溪橋

(やばけいばし)



耶馬溪橋・・・中津市本耶馬溪町 曾木／架設年：大正 12(1923) 年／橋長：116.0 m
橋幅：4.1 m／拱矢：3.0 m／径間：12.8 m／環厚：76c m／8 連アーチ／県指定有形文化財

<23>

耶馬溪橋 (その2)



有名な青の洞門の下流約 500 m の山国川に架かるが、全国一の長さで、耶馬溪の表玄関を飾る大石橋である。オランダ橋とも呼ばれているが、永松昇技師が設計監督している。大正 11(1922) 年度に当時の東城井村が、青の洞門の対岸 (山国川左岸)

を通じる道路を開設するのに伴って架設された。道路費と併せて工費 4 万円で施工している。工事の請負いは地元の岩渕万吉、石工は岩渕の義弟の鳥越七郎ら配下のもの、近隣の多くの石工が従事したようである。

平成 11(1999) 年、コンクリート

の高欄を石に取り替えるなど工費 1 億 6300 万円で補強・修復工事が行われ、左岸橋畔に案内板も設置された。

〈23〉

耶馬溪橋（その3）



<24>

大迫橋

(おおさこばし)

山国川左岸で耶馬溪橋の上流側にある。両側を拡幅しており補強しているが、耶馬溪橋と同時期に架設したものと推測される。



大迫橋 ・ ・ ・ ・ ・ 中津市本耶馬溪町 曾木／架設年：大正 12(1923) 年と推定
橋長：8.9 m／橋幅：3.6 m／拱矢：1.4 m／径間：7.2 m／単一アーチ

〈25〉

羅漢寺橋

(らかんじばし)



羅漢寺橋・・・中津市本耶馬溪町 曾木／架設年：大正 9 年 (1920)10 月／橋長：89.0 m
橋幅：4.5 m／拱矢：4.6 m／径間：26.2 m／環厚：90cm／3 連アーチ／県指定有形文化財

<25>

羅漢寺橋 (その2)



青の洞門の上流に国道 500 号の新橋
禅海橋が架かったが、この橋の上手にス
パンが長く緩やかな弧を描いた 3 連の
アーチが見られる。旧耶馬溪鉄道線の羅
漢寺駅から古刹羅漢寺への参道橋であっ
た。大正 6(1917) 年に着工しているが、
橋の崩落もあって竣工は大正 9(1920) 年
である。夜間の工事が珍しく見物人も多
かったという。工事の監督は鹿児島県日

置郡金峰町出身の黒葛原喜蔵技師 (1 年
で耶馬溪橋を設計した永松技師に交替し
たとも)、請負は地元の岩淵万吉である。

東耶馬溪村誌によると工事は県が行い、
工費は 2 万円とあるが、地元の共有林の
売却益と上津・東谷・西谷各村の負担と
有志の寄付によったとする話もある。

橋脚上の壁面には角形の付け柱を設
けている。付け柱は、皇居前の石橋にあ

り県内でも豊後大野市緒方町の鳴瀧橋
や長瀬橋などにも見られるが、壁面の補
強のほかに外観の美しさを強調したも
のであろうか。

平成 16(2004) 年、1 億 500 万円を
かけて補強・修復工事が行われた。

<25>

羅漢寺橋（その3）



〈25〉

羅漢寺橋（その4）



<26>

【禅海橋】

(ぜんかいばし)

羅漢寺川が跡田川に合流する位置に架設されていた。小出橋が正式な橋名のようなのである。右岸側のアーチが流失して、コンクリート橋が継ぎ足しになっていた。平成 2(1990)年 3 月下流に市道の新橋が竣工して撤去された。架橋記念碑の大きな穂石が川底に放置されていたが平成 5(1993)年の増水で流失した。



【禅海橋】・・・ 中津市本耶馬溪町 跡田 小出／架設年：昭和 2(1927)年 3 月
2 連のうち 1 アーチ

■大分の石橋探訪（おおいた の いしばしたんぼう）

石橋の魅力に取り付かれた一人の石橋研究家、元大分の石橋を研究する会会長の岡崎文雄氏が昭和 61 年から大分県に散在する大小の石橋を探し求めて 20 年、流失・撤去を含めた 618 橋の所在を確認、その歴史と諸元を記録し約 1000 枚の写真とともに電子ブックにまとめた。

■筆者・・・・・・岡崎 文雄（おかざき ふみお）氏

大正 13 年 大分郡挾間町生まれ（現由布市）
 昭和 57 年 宮崎県を退職
 昭和 62 年 大分の石橋を研究する会・日本の石橋を守る会会員
 平成 5 年 「魅せられて・里の石橋たち」共著
 平成 6 年 「大分の石橋記念碑」自費出版
 平成 8 年 「伝えたい・ふるさとの石橋」共著
 平成 13 年 「宮崎県の石造アーチ橋」自費出版
 平成 14 年 大分の石橋を研究する会 会長

（現住所：大分市緑ヶ丘 4-12-10）

「大分の石橋探訪」 Vol.3：本耶馬溪町（1） © 岡崎 文雄

2007 年 4 月 13 日初版発行

筆者 岡崎文雄

編集 大分合同新聞社

制作 別府大学メディア教育研究センター

発行 NAN-NAN 事務局

〒 870-8605 大分市府内町 3-9-15 大分合同新聞社総合企画室内

■オオイタデジタルブックとは

オオイタデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN（なんなん）」の一環です。NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたくと願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「大分の石橋探訪」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。

まずは、クリック！！